



テーマ 地方発 オンライン活用の未来 (要旨)

塚本 薫

株式会社きらり.コーポレーション 代表取締役

コロナ禍 新たなチャレンジへの取り組みスタート

私は、12年前に起業した。

若者求職者支援（地域若者サポートステーション）や、職業訓練からの就労支援、自治体と連携した雇用促進・中小企業支援の事業を企画・運営する「きらり.コーポレーション」KIRARI.CO (<https://www.kirari-co.info/>)を中心に、就労の出口としての復職した子育て女性のOJTの場としてのテレマーケティング・BPOの「エージェントこころ」、主に精神障がい者の就労移行支援事業と放課後等ディサービスを運営する「オルタナ」の3つの事業で経営に携わっている。

以前から想像している未来、ドラえもんの世界。5Gと騒がれる中で、情報の更なるスピードアップは、ドラえもんよりさらに進化した世界が訪れるのではないか。

コロナ禍で加速した働き方改革は大チャンス、これから始まるワクワクする未来創造。

内閣府の休眠預金を活用した事業募集に採択され、オンラインを利用した、テレワーク人材で働く人、若者・子育て女性・災害地域人材を増やすべく「オンラインワーカー塾」を立ち上げた。

働き方へ関心を持った理由

起業する以前は、熊本から東京へと拠点を移して上場した企業に勤めていた。テレワークで働くことが実現できれば幸せになる人が増えると確信したのは、2008年（平成20年）のワーク・ライフ・バランス元年、「仕事と生活の調和推進」という地方新聞の記事だった。

私自身は『自分の時間は自分で作るもの』と、自らできる限りの段取りをして息子の治療等に当たっていた。この段取り等に欠かせないものがインターネットを介したITツール。インターネットで共有できることに、なんて便利であるかと感じていた。

当時、インターネット環境も地方ではまだ整っておらず、多くの職業人にデジタルデバインドがあった。運よく、ITリテラシー教育を自治体を実施する底上げのセミナー構築に携わった後に、起きたのはリーマンショック。民間の職業訓練校から講師の依頼があつて、数十人のIT講師をマネジメントする側から講師をする側に回った。

このときの経験から、ITリテラシーがこれからの仕事、働き方には必要不可欠なスキルになる。ITリテラシーを学び、ITツールのスキルアップをすることで、ワーク・ライフ・バランスも実現可能になる、と確信した。

コロナ禍 働き方実現へのステップ

ITリテラシーの職業訓練校を実施・運営したが、安定的定期的な採択につながらず、事業として継続できないという判断で求職者訓練を休止した。（R2年度より再開）。

別プロジェクトで、子育てブランクのあるITに縁がなかった女性や、キャリアがなくITスキルのない若者をあえて雇用し、On the job training =OJTを実施するという取り組みを開始して

おり、それをエージェントこころという社名で分社した。8年目現在、地道ではあるが正社員数7名、総数で21名となった。

電話をメインツールとしたいいわゆるコールセンター業務の電話対応は、人材育成には最適なOJTになると以前から考えていた。見えない、会ったこともない相手に対して、声だけでコミュニケーションを取り、主訴を汲み取り対応を完結する。一度も出会わずに商品を販売する。企業のニーズをきき、商品を理解、説明の上、クロージングしていく。

さらにITツールを利用した管理、分析を行い、コミュニケーションICTの技術もプラスした。

こと、通信販売に関しては、受注歴・コンタクト歴・会話の内容やその分析、そこをセグメントしたマーケティングまでを実施していく。これらを通じて、価値観の違う様々な人々とのコミュニケーションを体験・体感しながら、クライアントへの信頼を構築していくという仕事である。

これまでの企業のOJT=人材育成の多くは、企業が求める一般的、マルチな仕事を求める人材育成であったと感じていたが、強みを把握し活かした人材配置こそ、企業にとっての適材適所そのものではないか。

エージェントこころでは、なかなか自分でもわかりづらいその人その人の強みを、スタッフそれぞれが意識して見守りながら育成していく基盤ができてきたと思っている。

それまで接客業のキャリアしかなく、パソコンの電源さえも入れられずにいた、子育ても初心者で飛び込んできた女性が、今ではICTの仕組みを構築し、その分析からクライアント提案までを行なっている。コミュニケーション力が足りない自信が持てず、周りの声で集中ができないからと耳を押さえていた若者が、今では、人材育成のプログラムを的確に作成している。

地方では、シングルマザーや夢破れて都会から離脱した若者が、実家に帰ってきているケースが多いと私は感じている。

子育て女性の多くが、ジェンダー的な慣習にとらわれて働くことを選択しているわけではない。どんな状況でも働く環境を作れる時代になっていることを正しく伝え、このチャンスを活かし、仕事を提供する仕組みを作ること、都会の企業をサポートし役に立ちたいと考えている。

コロナ禍 地方から発信

DXが叫ばれている。

地道にITツールスキル、ICT実践のOJTに取り組んできている身としては、DX化の前段階であるITツールスキルを使える人材を育成することが、どれほど時間がかかることであるか理解している。



「オンラインワーカ塾」<https://onlineworkerjuku.com/>は、ICTの基礎リテラシーを徹底的にトレーニングする15講座として、3月にそのリアル講座、録画を終えて、専門スキル（プログラミング・デザイン・分析、マーケティング・ICT等）への入り口を展開していく。

ここでは、ITリテラシーは、リアル受講ではなくアーカイブで何度も見ることができ、基礎スキルとして、しっかり習得することができる。休眠預金活用事業であるので、是非、多くの方に利用してもらいたい。全国、どこからでも参加できる。

私が思い描くビジョンでは、子育て女性が社会参画でき、その成長を楽しんで就労することが、その子どもたちにも大きな影響を与え、子どもたちの未来の仕事観にも影響を与える事業となる。DX 人材育成も急務であるから、オンラインの有効性を活かし、また、その人その人の適性や価値観を大切にしたい人づくり日本を実行してもいいのではないかと。

今こそ力を合わせ、地方の大きなポテンシャルである人材に焦点をあてて、このコロナ禍を乗り切れるのではないかと私は願っている。



(詳しくは本文 <https://bit.ly/337pnqJ> をご覧ください。)

執筆者紹介

塚本 薫 (つかもとかおる)
株式会社きらり.コーポレーション 代表取締役



平成 20 年 5 月”スキルアップによるワークライフバランスの実現”を目指し、NPO 法人ワークライフバランス共議会を設立。

各自治体や中小企業での問題解決のためのビジネススキルアップ、エンパワーメント講習、各種講演セミナー等を行う。

平成 21 年 10 月にきらり.コーポレーションを設立。

求職者の職業訓練と企業での人材育成・定着と人の育成に携わり、平成 23 年 7 月に株式会社とする。企業の採用・企業内人材

育成の人に関わるコンサルティングをはじめ、女性活躍推進コンサルティング、女性管理職育成セミナー等実績多数。平成 27 年より厚生労働省の委託事業、熊本

県南地区の就業支援、若者サポートステーションやつしろを運営。

平成 23 年就労移行支援施設、一般社団法人オルタナの理事として主に精神障がい者の就労へ関わり、放課後等デイサービス一休併設。

平成 25 年 4 月育児ブランクママの 0JT として、株式会社エージェントこころを分社し、テレマーケティング事業を展開、令和元年に天草テレワークサテライト事務所をオープン。

(編集者より補足)

熊本県(離職者向け再就職訓練事業)(女性のチャレンジ応援事業企画運営)(女性経営参画塾)(女性起業支援セミナー事業企画運営)他多数、熊本市(職員向けワークライフバランスセミナー)(働く女性の大交流会企画運営)他多数、他 検察庁(職員向け WLB 講演)、内閣府(輝く女性のセミナー等講師)、九州農政局(職員向け WLB 講演)、熊本地方裁判所(職員向け WLB 講演・スキルアップ研修)、その他自治体、民間企業に対し、枚挙のいとまない講演、セミナー等実績多数

当財団では、第一線で活動される気鋭の執筆者に依頼し、時代を拓く提案、提言をニュースレターとして発信しています。ご意見をおよせください。

財団事務局 abrighterfuture@theoutlook-foundation.org

一般財団法人 未来を創る財団 : <http://www.theoutlook-foundation.org/>

© 2021 The Outlook Foundation. All rights reserved.